

X 財務

推進分野の背景と方向性

18歳人口の減少や入学定員管理の厳格化、さらには経済環境の悪化等の厳しい環境の中、本学の不断の改革の推進には、より強固な財政基盤の確立が求められる。

本学では全取入の9割近くを学生生徒等納付金に依存しており、定員の長期的な確保に加え、補助金の獲得、恒常的な寄付金の募集、効率的な資産運用など学生生徒等納付金以外の収入面での多角化が課題となっている。一方、支出面では限られた財源の最適配分のため、戦略的な予算編成が求められる。その上で、明確な数値目標を設定し、実質的なPDCAサイクルを導入することで中長期的な収支の均衡を図る。

また、「UMEMURA VISION 2033」の目指す学園像の実現に必要な、安心・安全で魅力的なキャンパスづくりを中長期的なキャンパス整備計画であるキャンパスマスタープランに基づき、着実に進めていく。



推進事項 1

財政基盤の強化

大学の財政運営は、年度単位での予算編成と執行によって行われる。一方で、複数年度にわたり実施される事業や多額の投資を必要とする事業が計画されている。

支出面においては、集中的に予算を投下する事業について、管理会計的手法等を用いながら各事業を客観的に点検・評価できるような仕組みを構築する。収入面においては、寄付金募集事業をはじめとする外部資金による財源の確保を積極的に行う。

そのために、財政に関して4つの重点ポイント「①財産を守る」「②財務情報の説明を尽くす」「③多様な収入源をつくる」「④コスト意識を持つ」ことを定め、本学教職員の意識醸成を図る。

主な施策

- 1 各事業に関する予算の点検と評価方法の構築
- 2 より分かりやすい財務情報の提供
- 3 多様な財源による収入増

推進事項 2

中長期的な施設整備計画に基づいた、キャンパス整備の推進と新たな価値の創出

キャンパスマスタープランに基づく施設整備の実施を通じて、本学の教育・研究活動の発展と強化、施設・設備を通じた社会貢献の推進、大規模災害への対策強化などを行い、魅力的なキャンパスづくりを進める中で本学の新たな価値の創出へとつなげていく。また、適切な保守・修繕の実施によって、キャンパスに集うすべての人の安心・安全な利用を確保し、社会にとつてなくてはならない高等教育機関として在り続けることを目指す。

主な施策

- 1 教育・研究活動の活性化に資するキャンパスの新たな価値創出
- 2 社会と共生するサステイナブルキャンパスへの進化
- 3 中長期保全計画の策定と実施

推進事項 3

教育・研究を支える学術情報基盤の再構築

教育・研究活動の進化には、それを支える環境の充実が欠かすことができない。学び方が変化している昨今の状況においては速やかな学術情報基盤の再構築が求められる。オンライン授業やアクティブラーニングなどを実施する際、その効果を最大化できるよう、また研究活動がより促進されるよう、次世代技術を取り入れた情報環境の整備を行っていく。またその環境を本学に集う人が安心・安全に利用できるようセキュリティの強化も並行して行う。図書館においては、書籍等のデジタル化推進、スペースの活用、また近隣大学との連携を行うなど、図書館のあり方を見直し、教育・研究活動の基盤を再構築していく。

主な施策

- 1 戦略的な情報化推進と情報環境の整備拡充
- 2 図書のデジタル化推進及び図書館の有効活用